



血清アルブミンの ESR 法：癌診断とモニターの新しい試験

KEYWORDS// 血清アルブミン, ESR 法, 癌診断法

癌細胞により放出される蛋白質は血清アルブミンに結合でき、その構造と機能を変化させる。著者らは血清アルブミンのこれらの変化が癌の診断とモニターに有効かどうかを評価するために ESR 法 (electron spin resonance spectroscopy) により検討した。検討にあたり、スピン捕捉には 16-doxylstearic acid を用い、健康者、血液腫瘍患者、非血液腫瘍患者、胃腸系慢性疾患患者、肺疾患患者、糖尿病患者および肝硬変患者の血清アルブミンの立体配座の違いを ESR スペクトルにより比較した。診断感度と特異度は癌患者と健康者の判別ではそれぞれ 87.4% および 95.7% であり、癌

患者と慢性疾患患者の判別ではそれぞれ 87.4% および 85.7% であった。幾人かの患者ではアルブミンの立体配座の変化はアルブミンの ESR スペクトルの異常の程度と疾患重度の臨床的および病理学的評価間に良好な一致を示した。血清アルブミンの ESR スペクトルは癌患者において診断的有用性をもつ鋭敏で非侵襲的技術であり、モニターにも使用できる。

(Kazmierczak S, Gurachevsky A, Matthes G, et al : Electron spin resonance spectroscopy of serum albumin : A novel new test for cancer diagnosis and monitoring. Clin Chem 52 : 2129-2134, 2006)

(埼玉県立大学短期大学部 鈴木優治)